

マインドマップによる思考力の向上

豊田 則成¹⁾ 吉田 政幸¹⁾ 志賀 充¹⁾ 高橋 佳三¹⁾ 佐々木 直基¹⁾
望月 聡¹⁾ 植田 実¹⁾ 若吉 浩二¹⁾

Try to improve student's ability to think by drawing the mind map

Norishige TOYODA, Masayuki YOSHIDA, Mitsuru SHIGA, Keizo TAKAHASHI,
Naoki SASAKI, Satoru MOCHIDUKI, Minoru UEDA, Kohji WAKAYOSHI

Key words : mind map, learning strategy, self-regulated learning, qualitative approach,
visualization of one's experience

キーワード：マインドマップ，学習方略，自己調整学習，質的アプローチ，経験の視覚化

1. はじめに

ここでは、本学初年次教育である教養演習Cにおいて導入したマインドマップの教育的効果について報告する。そもそもマインドマップとは、トニー・ブザンを創始者とするメンタルリテラシー (mental literacy) のことで、頭の中を整理し、思考力を向上させることを期待できる学習方略として位置づけることができる。これを教養演習Cで導入した背景には、マインドマップによって受講者の思考力の向上する学習方略の獲得を目指しており、Tab.1およびTab.2に示すような内容で実施された。

マインドマップに対する取り組みを観察し、他の授業に比べてみると明らかに、受講生は課題への関心を強め、居眠りをしたり私語を漏らしたりすることなく集中して取り組み、楽しみながら学習を進めているように見受けられた。そのような光景を目の当たりにし、授業実施者は、「マインドマップを描くことで、どのような体験をしているのか」といった素朴な疑問を抱かずにはいられなかった。そこで、本研究は、この素朴な疑問をリサーチクエスション (Research Question: 以

下、RQと称す) に設定し、受講生の直接的な語りを通じて質的にアプローチし、発展継承可能で有益な仮説的知見を導き出すことを目的とした。

2. 方法

対象者：著者が担任を務めたクラスに属した受講生20名

手続き：教養演習Cの最終プログラムである個別面談の際に、「マインドマップについて、どのように感じたか」を中心としたブリーフインタビューを実施した。ひとりあたり10～15分程度の会話の中で、予め承諾を得た上で、会話の内容をICレコーダーに収録し、逐語を起こしてテキストデータとした。

3. 結果と考察

質的研究法の代表的な手法であるGTAを利用して、テキストデータを分析した結果、13個のカテゴリー (斬新さ、好奇心、遊戯性、挑戦的態度、ブロックを外す、自由な連想、受動的な集中、手を止め考え込む、マップを俯瞰する、記憶の実感、楽しさ、可能性への挑戦、教え方のうまさ) と5個のカテゴリーグループ (①学習活動への動機づけ、②主体

1) 競技スポーツ学科

的な取り組み, ③学習活動への集中, ④学習効果の実感, ⑤教え方のうまさ)を生成するに至った。これらカテゴリー間の連関を検討した結果, 【マインドマップによる学習体験メカニズム】(本紀要△~△)を導き出すに至った。

4. まとめ

本研究は, 「マインドマップを描くことで, どのような体験をしているのか」といった

RQの下, 質的なアプローチを行った結果, マインドマップは, 1) 学習活動における動機づけを高め, 2) 学習活動への主体的な取り組みを促し, 3) 学習活動への集中を促し, 4) 学習者が学習効果を実感するのに寄与し, 5) 教え方のうまさによって学習の質的向上が期待できる, といった知見を導き出すに至った。今後は, 自己調整学習理論を背景に, マインドマップの学習方略としての有効性を検討していきたいと考えている。

Tab. 1 授業の到達目標

項目	目標内容
①	学科・コースでの専門的な学習に移行するにあたって, 知っておかなければならない基本的な事項(図書館の使い方, 基本的なマナー, インターンシップなど)について理解する。
②	教養演習A・Bで身につけた基礎的な言語・非言語能力に更に磨きをかけるため, 教養演習Cでは情報収集, マナー講座, キャリアガイダンス, 学科選択などのテーマの下, マインドマップを使って思考力を高める。
③	大学において自主的・主体的に学ぶために不可欠なスタディ・スキル(文献・資料の収集と読み方, グループ学習の進め方, 書き方, 発表の仕方, ディスカッションの仕方など)を身につける。
④	将来の目標に向けて, 大学での4年間で到達すべきゴール, および1年次の間に到達すべきゴールを設定し, その達成度を確認しつつ, 必要に応じて再設定する。

Tab. 2 教養演習C 授業実施内容 一覧

水	テーマ	内容	目標	担当
1	9.28	マインドマップの説明および夏休み報告レポート	②	豊田
2	10.5	3分間スピーチ	② ③	担任
3	10.12	図書館の利用方法	①	図書館
4	10.19	選んだ図書の内容をまとめる(1)	② ③	豊田
5	10.26	選んだ図書の内容をまとめる(2)	② ③	担任
6	11.2	グループ発表	② ③	担任
7	11.9	休講		
8	11.16	基本的なマナーを学ぶII	① ②	ゲスト講師: 福井 教務委員長
9	11.30	キャリアガイダンス	② ③ ④	吉田 4年生
10	12.7	基本的なマナーを学ぶI	① ②	ゲスト講師: 臼坂 教務委員長
11	12.14	セルフマネジメント	② ③ ④	豊田
12	12.21	学科選択オリエンテーション	① ④	教務委員長, 両学科長, コース代表教員
13	1.11	個人面談1		
14	1.18	個人面談2	④	担任
15	1.25	個人面談3		